

灯 (あかり)

玉之浦小中学校だより
第 1 3 号
令和4年10月14日

9月25日(日)の運動会で一息つきたいところでしたが、10月に入って駅伝大会、小体連と大きな行事が続き、今号では、この2つの行事の様子を中心に伝えします。

五島市中学校総合体育大会 駅伝競走大会

決意の声を会場に響かせました。

10月5日(水)標記の大会が開催され、本校も出場しました。昨年は新型コロナウイルスのためにソフトテニス新人大会が1か月余り延期され、開催時期が近接したため、駅伝大会を辞退しました。今年

という結果でした。11時40分男子駅伝スタート。一人一人が自分に挑戦しながら、6区間のタスキを繋いで完走することができました。結果は12位(13チーム中)でした。



1区和志さん



2区太志さん



3区優斗さん



4区未来さん



5区真心さん



和志さん



さわやかな

の女子チームは久賀中学校と合同チームを編成し、男子チームは本校単独で臨みました。大会当日、開会式での選手宣誓は、本校キヤプテンの和志さん。



匠也さん



伊織さん

清悟さん

日、自分と勝負しよう!と始めた駅伝の取組でした。タイムという結果、乗り越えることができたという事実||自信:それぞれに光が見えたと思います。そして、応援も含めた15名全員で乗り越え



た達成感は格別だったはず。閉会式後の集合写真:みんないい表情をしています。

小学校体育連合大会

小学5・6年生が出場

選択した種目の2種目に出場しました。(左の写真はすべて1

10月12日(水)標記の大会が、3年ぶりに市内の全小学校が参集して開催されました。小学5・6年生が、100m走と



大空さん



純さん



希美さん



紗英さん



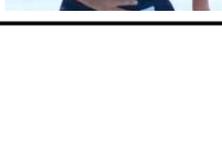
真矢さん



楓さん



未来さん



知也さん

嘉穂さん

未来さん

知也さん

知也さん

組んできた自分を振り返って、くれれば、それも大きな成果だと思えます。また本校からエントリーしてはなかった800mの選手が応援席前を通る時には、大きな拍手と校章旗を振って応援してました。自然にこのような行動ができる子どもたちの優しさも見ることができました。

【5年生】

○100m走8位 楓さん

○走り幅跳び1位 楓さん

○ボール投げ7位 真矢さん

【6年生】

○走り幅跳び3位 純さん

○ボール投げ8位 未来さん

3年ぶりに参集しての開催でしたが、それでもリレー競技は省略されて、学校で別に記録を取ります。来年こそは…と強く願います。

バドミントン競技 五島市小中学生大会

9月23日(金) 市バドミントン協会主催の標記の大会が市民体育館で開催され、女子バドミントン部と、玉之浦Jrの小学生たちが出場しました。

初陣で緊張している小学生も

…これはどこにも負けて

いませんでした。予選リ

ーグを経て、決勝トーナ

メントに駒を進める子ど



光祐さん



愛之助さん



望来さん



勝仁さん



綾音さん



純さん



勇星さん



嘉帆さん



真矢さん



真心さん



成香さん



紗英さん



楓さん

もたちが多くいました。結果は次の通りでした。

○小3以下の部

・優勝 望来さん

・3位 光祐さん

○小4の部

・優勝 勇星さん

・3位 勝仁さん

○小5の部

・準優勝 真矢さん

・3位 嘉帆さん

○小6の部

・準優勝 純さん

・3位 久しぶり

に小学生の試合を見せ

した。子どもたちの成長が、試合に現れていました。また応援に来ていたある小学1年生は「次は僕も出る」と、何度も伝えに来てくれました。裾野の広がりを感じました。10月6日(木)ソフトテニス新人大会、バドミントン市民体育大会と一緒に、全校児童生徒の前で表彰伝達を行いました。

雑巾の寄贈

9月13日(火) 玉之浦

老人クラブの宗鈴様様に、120枚もの雑巾を届けていただきました。玉之浦老人クラブ様からは、毎年、雑巾を届けていただいています。掃除はもちろん、書写や図工・美術などの教科指導でも大変助かっています。地域の皆様、このように応援していただいていることを心強く思います。今回のいただいた雑巾も、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

よしなしごと

長崎新聞に掲載されていた女子高校生の投稿文から抜粋：「僕が[EANUTS]という漫画にはこんな台詞がある。「僕が思うに、苦しみを経験してない人間は本当の意味で大人になることはできないよ。苦しむというのは、実はとても大事なことなんだ。」このことから、苦しい経験をするのは真の大人になるための試練だと思った。この苦しい経験を乗り越えることができるときこそが「大人」なのではないだろうか。…駅伝の練習や大会当日の生徒たちの姿と重なる。生徒数が少ない本校は、選抜チームを編成する余裕はなく、ほぼ総力戦で臨んだ。日々の練習、故障、自分が繋がなければというプレッシャー…すべてが苦しい経験だ。それだけにレースが終わった後に感じた達成感は格別で、感想文にもその気持ちが表れていた。前提として、いくら努力しても越えられないハードルを与えることはしない。その上で、本人の努力や仲間との協力、様々な支援を受けながらハードルを越える経験を、若いうちしておくことが大切だと思う。大人の役割は、闇雲にハードルを取り除いてあげることではなく、ハードルに向かって背中を押すことではないだろうか。それが大人である親や教員の役割だと思う。投稿文の最後は「私は本格的に受験勉強を始めた。…確実に乗り越えてみせる。真の大人になるために。」と結ばれていた。

あとがき

●今日は稲刈り、明日はロボコン大会…次号でお知らせします。
●9月末の小学5・6年生の学年閉鎖後は、落ち着いた状態が続いています。ほぼ計画通りに学習や諸活動、行事が進んでいます。コロナ感染対策、今後もご協力ください。

ジュニア歌壇

9月26日(月) 長崎新聞に掲載された生徒の作品です。

○雨上がり空みているとカラフルの

大小二つかかる虹かな 中3 川脇颯太

○春の風前の月よりホカホカな

天気の良い風気持ちいい 中3 中村和志